

園のおたより



第 1 号

令和 3 年 4 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

新たなるスタート

園長 小倉 康

新しい一年が始まりました。

新入園された方を含むすべての園児と保護者の皆様が本当に良かったと感じられることを目指して教職員一同、日々心を込めて業務を行うことを誓います。

ビオトープ

限られた場所で小さな生態系を構成する生物群集のことを意味しています。本園の自然観察園で利用されなくなったコンクリート製の水遊び場をビオトープに転換して、もっと子供達の教育に活用したい思いで、昨秋から整備を始めました。

おやじの会にご協力頂きコンクリートの水漏れ箇所を補修し、排水工事を施した後、子供たちに土入れを手伝ってもらって注水し、しばらく経ってメダカとヌマエビ、スイセン株等の植物を迎えました。寒い冬を越え、春になってホテイアオイが加わりました。



今では暖かい日にメダカの群れが水草の間を気持ち良さそうに泳ぐ様子が見られるようになってきました。ビオトープが小さな生態系として存在できるよう、基本的にエサやりはしません。「人がエサをあげなくても生き物が生きていける」しくみについては小学校や中学校で学習しますが、自然というものは元々そういう存在だということ、生き物たちが自然に生きられる環境を守ることが大切なことを、幼稚園の子供達にも感じてほしいと思います。先日、水面にアメンボが浮かんでいました。どこから

やってきたのでしょうか。今後、昆虫の仲間も自然の営みによって少しずつ増えていくのでしょうか。ビオトープを良好に保つには、水量や水温、水質を適切に管理することも大切です。今年の本園のビオトープ元年、子供達がその小さな自然と関わりながら生命観や自然観を伸ばしてくれることを願っています。

だいじょうぶ

いとうひろしさん作の絵本に『だいじょうぶ だいじょうぶ』（1995. 講談社）という作品があります。主人公のぼくは、いつもおじいちゃんに「だいじょうぶ だいじょうぶ」と、支えてもらっています。おじいちゃんの「だいじょうぶ」は、ぼくが成長していく大きな力になっています。絵本の後半では、成長したぼくが、今度は反対に、病気のおじいちゃんに「だいじょうぶ」と接する立場へと変わります。

物語『もりのへなそうる』（渡辺茂男さん作・山脇百合子さん絵 1971. 福音館書店）にも、「だいじょうぶ」が出てきます。『もりのへなそうる』は保育の中で、子ども達に読み聞かせることもある長く人気の作品です。大きく不思議ないきもの“へなそうる”は、小さなカニの存在を知らず、どんどん想像を膨らませすぎて、恐ろしい怪物と勘違いして怖がっています。へなそうると友達になったてつたくん（5歳の兄）が、「だいじょうぶ だいじょうぶ」と声をかけると、真似してみつやくん（3歳の弟）が「だいじょうぶ だいじょうぶ」と声をかけます。へなそうるも、2人の「だいじょうぶ」「だいじょうぶ」に、助けられていきます。

もう一つ、お馴染みの映画『となりのトトロ』の中の「だいじょうぶ」です。しっかり者の姉・サツキちゃんは、病気のお母さんのことが心配になり、お世話になっているおばあちゃんの前で、涙を流します。いつも気丈にふるまっているサツキちゃんのことを分かっているおばあちゃんが、そっと「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と寄り添ってくれる場面があります。とても印象的な場面です。映画の終わりは、元気な様子のお母さんを、木の上から姉妹が見ている場面になります。妹のメイちゃんが「お母さん、笑ってるよ」と嬉しそうにすると、サツキちゃんも「だいじょうぶみたいだね」と返します。見ている側も、「だいじょうぶ」とほっとする終わりです。

日々の幼稚園生活での子ども同士のやりとりでも、困った様子の友達に「だいじょうぶ？」と、優しく声をかけている場面に出会うことがあります。とても素敵な一言です。声をかけられた人も、友達のその一言に力ももらっているのだと感じます。大人が子ども達と接している中で、本当にこれでよいのだろうかと思慮することも多くあります。そんな時、「だいじょうぶ だいじょうぶ」と一呼吸おいてみると、自分の見方や気持ちが変わることがあるように思います。

困難な状況が続きますが、「だいじょうぶ」という気持ちをもちながら、今年度の保育を進めていきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

副園長

クラスだより



1 くみ

「ようちえんって楽しいな」

幼稚園に入園してもうすぐ2週間が経とうとしています。少しずつ幼稚園での生活にもなれ、元気な声で「おはよう」と挨拶をしながら登園してくれるようになりました。登園するとすぐに「今日は何して遊ぶの？」と幼稚園に来てたくさん遊ぶことを楽しみにしています。

園庭に出ると、砂場やすべり台などやってみたい遊具を見つけてすぐに遊びが始まります。ある日、Aさんの「電車を作りたい！」の一言からみんなで電車作りが始まりました。ビールケースやマットを使って電車を作ります。Aさんは、「ガッチャン」と声を出しながらビールケースをどんどん長く繋げていったり、Bさんは「運転手になりたい！」と先頭車両に乗って運転をしたり、Cさんは電車に見立てた太鼓橋に乗って運転したりと、いろいろな電車の遊びを楽しみました。自分がやってみたいと感じたことをやってみて、少しずつ幼稚園で遊ぶことを「楽しい」と感じ始めてくれているようです。

さて、そんな楽しい幼稚園での生活は、まず靴を履き替えることから始まります。初日からしばらくは、靴のまま部屋に入ろうとしたら、「上履きってなに？」と不思議そうにしたりしながら、なんとか靴を履き替えて部屋に入っていました。部屋に入ってから、ハンカチを出したり、手を洗ったり毎日たくさんの身の回りのことがあります。毎日繰り返す中で、少しずつ自分でもやってみようとして挑戦したり、「お外に行くときは靴を履き替える！」と気付いたことを教えてくれたりする姿が多くなってきました。自分でできるようになったことを誇らしげな顔で伝えてくれるのがとても嬉しいです。

幼稚園に来ることが楽しいな、今日もいっぱい遊べて楽しかったな、と毎日幼稚園に来ることに楽しさを感じ、伸び伸びと過ごせるよう、1組のみんなと楽しい気持ちを共有しながら日々の保育を行いたいと思っています。これから一年間よろしく願いいたします。



2くみ

「みんなで一緒に」

新しい部屋、新しい友達、気分新たに迎えた新年度も早一ヶ月が経とうとしています。最初は緊張した様子で登園していた子どもたちですが、最近では素敵な笑顔をたくさん見られるようになりました。初めてみんなで食べる「お弁当」、初めてみんなでした「かけっこ」など初めて尽くしのこの一カ月は子どもたちにとって、とても濃密な時間だったのではないかと思います。

天候に恵まれて、子どもたちは春の自然を感じながら過ごしています。園庭にはたくさんの草花があり、そのもとにはたくさんの虫たちがやってきます。ダンゴムシを探したり、花束を作ったり、思い思いに自然に触れている姿が印象的です。最初は一人でダンゴムシを探していたのに、いつの間にか二人になり、三人になり、まるで宝探しをする探検隊のようです。「ダンゴムシはどこにすんでいるのかな?」「こっちのほうを探してみようよ!」などと、声を掛け合う姿を見ていると、和らいだ気持ちになります。担任も一緒になって草をかき分けたり、土を掘ったりして一緒にダンゴムシを探しました。ダンゴムシはなかなか見つかりません。それでもみんなで一緒に探すことはとても楽しく、また次の日も一緒に探すことが続きました。

降園前には、毎日「好きな〇〇はなに?」と子どもたち一人一人に聞いています。友達の好きなものを聞いて「私も同じ!」「私は〇〇が好き!」というように思いを伝えあう姿を見ると、みんなで一緒にいることよさを改めて感じます。また、担任自身も好きなものを伝えていきます。子どもたちが共感してくれたり、関心を寄せたりしてくれることを、とても嬉しく思っています。これから園生活を通して学級のみんなでたくさんの楽しい経験をして、思い出をたくさん作り、学級で過ごすことがどんどん楽しくなっていけばいいなと思っています。



3くみ



「3組になって」

「歓迎会」についてお話したいと思います。

新しい友達に何かしてあげたいと「おめでとうの会」を開くことにしました。去年を振り返ると「劇を見せてくれた」「バルーンを一緒にしてくれた」など、記憶に新しいことを思い出しました。前の3組さんが心を輝かせて見せてくれたことを、一つ一つ宝物のように大切にしていることが分かりました。

それでは今の3組さんはみんなで心を合わせてしたいことは何か。次々とアイデアが出てきました。

楽器を鳴らして遊ぶうちに、合奏をすることに。どんな楽器にしようか、どんなリズムにしようかと、自分たちで決めました。

プレゼントもあげたいと、ネックレス、うでわ、花かんむり、花束、引き出し、剣、紙飛行機、指輪…。間違えて食べたりしないもの、飛んでいったら探すのが大変、危ないものはやめよう、無くしちゃうから小さい物はやめよう、大きすぎてもママと手を繋げなくなって危ないなど、小さな友達のことを思い「花かんむり」を作ることに。ところが、花は喜ばない人もいるかもしれないから車とか星もつけようということになりました。そんなわけで「かんむり」を作ることになったのです。パーツを描いたり切ったりすることは、少し難しいと感じながら一つ一つ丁寧に作りました。

プレゼント、合奏、手遊び、絵手紙、司会…毎日少しずつ準備を重ねました。

前日になると、ドキドキ、わくわくする、楽しみ…それぞれがいろいろな思いを感じていました。あれ？そういえば明日おめでとうの会をすることをお知らせしてない…ということに気づきました。大変です。1組さんはその頃、帰るところでした。2組さんには今から伝えよう。1組さんは明日の朝伝えに行こう。

このようにして当日を迎えました。

自分たちで会を進める姿は堂々としていて輝いていました。

みんなと一緒に会を作り上げたこと、喜んでもらったこと、ドキドキしたけれど楽しんだこと。一人一人が達成感に満たされた会になりました。3組さんの想いは、まだまだ書き足りないですが、その姿からたくさんの感動をいただいたことへの感謝の気持ちを込めて。